

集合型TEKU-TEKU2023★神田川の北の丘と南の町（活動記録+評価結果）

企画■神田川の北の丘と南の町～目白台・早稲田を歩く～

日時■2023年10月7日（土）13時15分～18時（集合型まち歩き）

コース■★江戸川公園（橋詰広場）～目白坂～文京区立関口台町小学校～★江戸川公園～駒塚橋～関口芭蕉庵＋水神社～胸突坂～蕉雨園（旧田中伯爵邸）～和敬塾（旧細川侯爵邸）～講談社野間記念館～オトノハカフェ～東京カテドラル聖マリア大聖堂（by丹下健三）～日本女子大学キャンパス（成瀬記念講堂＋百二十年館＋図書館他）～目白台運動公園～幽霊坂～★旧細川邸/永青文庫＋肥後細川庭園/松聲閣～TOSA～豊橋～都電さくらトラム早稲田～大隈通り商店街～観音寺～★早稲田大学本部キャンパス（坪内逍遙演劇博物館＋會津八一記念博物館＋国際文学館/村上春樹ライブラリー＋早稲田大学歴史館）～大隈記念講堂～ドラード和世陀（by梵寿綱）～早稲田奉仕園スコットホール（byヴォーリス他）～新宿区立早稲田小学校（by渡辺仁）～★漱石山房記念館＋道草庵～夏目坂・漱石生誕地（★＝評価対象）

参加者■○大竹 亮、栗原 徹、重永真理子、庄山典子、杉谷知子、原 久子、藤井正男*、藤井幹也、溝辺正浩、村田英樹、村松紀明、森 正代、八坂悦朗（以上13名、○コーディネーター、*別途参加）

企画主旨■前々回の作家アトリエ企画では、神田川・妙正寺川北岸の住宅地（落合・中井付近）を巡りましたが、今回はその下流の目白台・早稲田を巡ります。北岸は切り立った崖上に邸宅群が並ぶ目白台の超高級住宅地で、南岸は緩やかな斜面に商店街が連なる早稲田の学生街という対照的な2つの街です。北岸の目白台には、旧細川侯爵関連の肥後細川庭園・永青文庫、芭蕉庵など一連の施設が文化と環境を伝えています。南岸の早稲田では、早稲田大学ゆかりの大隈重信、坪内逍遙、會津八一、夏目漱石関連の諸施設が揃い、その偉業を教えてください。そして、神田川沿いお江戸川公園として整備されています。神田川兩岸の町の姿を比べながら、歴史と文化を生かしたまちづくりについて考えてみましょう。

1 ■江戸川公園（橋詰広場～斜面緑地～散策路の全体）

評価:4.17 内訳:AAAAAABBBBBB-

評価A◆神田川に沿った北岸の急斜面地を上手く活用し、川沿いの散策路と崖の山道という渓谷のようなダイナミックな公園となっている。江戸川橋北詰の入口は、殺風景になりがちな高速道路高架下の空間が、木材を多用して明るく快適な親しみやすいスペースになっている。

評価A◆緑豊かな斜面地を活用し、上水整備や芭蕉庵など史跡も保存した公園。要所にある解説もわかりやすい。

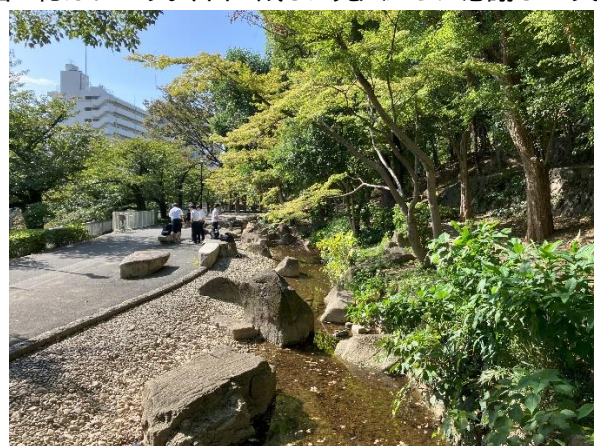
評価A◆川沿いの土地の高低差を生かした緑豊かな公園がオアシスとなっていて、近くに首都高が通る都会であることを忘れさせる場所だと思いました。公園内の巨木や重量感ある斜面の石垣や小川が歴史へのタイムスリップを感じさせていて心地よい場所だと思いました。

評価A◆江戸にとって神田川が重要な用水であった歴史や役割を伝える努力がされていると思う。兩岸の地形の特徴や高低差がわかり、快適な散策空間。・・・いろいろ考えていくと、屋敷町の雰囲気と合わせて江戸・東京にとっての偉大な環境資源を多くの都民が共有する努力が、まだまだ可能なのでは？ また散策しながら川底と垂直の護岸をみると、現代の都市河川の氾濫危険性が実感される。

評価A◆細長く深い川沿いの条件の難しい傾斜地をよく活かしている。高低差十分余りです。江戸川（神田川）は、ほとんど人工開削の流れなのですね。そこからまた神田上水を分離した。この狭窄な谷底の地形を活かした偉大な土木工事だった。ここが暗渠にされなくてよかった。玉川上水が羽村取水堰から拓かれ、井の頭池・神田川を経てここまで飲み水が通じていた昔が偲ばれます。今日を残した先人たちに感謝します。



江戸川公園／江戸川橋北詰の首都高高架下広場



江戸川公園／旧神田上水取水堰付近の散策路

評価A◆神田川は深い掘割で、公園や庭園が隣接しているイメージがありませんでした。公園も作りすぎてなく、心地よい場所になっており、細川庭園（旧新江戸川公園）は管理の行き届いた秀逸な公園と思いました。

評価A◆散策路があり地形が感じられて良かったが、さらに散策路が延長されると良いと思う。

評価B◆神田川に面した斜面地を利用した公園であり、江戸川橋の入口部分は首都高の高架下だが、巧くデザインして悪くない空間となっている。

評価B◆高架下を入口として神田川沿いの細長い公園は、手入れもよくされて人々の憩いの空間となっていた。

評価B◆この土地ならではの傾斜地形を活かした公園は、変化に富んでいて子供たちにとっても楽しそうでした。全体的には水辺もあり落ち着いた雰囲気あり。

評価B◆ほぼ直立しているような急な崖地がスリリング。都心にこんなところがあるんだ！

評価B◆桜が満開のときよさそう。

2■旧細川邸関連施設（永青文庫+肥後細川庭園+松聲閣ほか） 評価:5.00 内訳:AAAAAAAAAAAAA

評価A◆大名屋敷の庭園をそのまま公園にしており、隣接する椿山荘の庭園も含めて、都心では貴重な緑の空間を形成している。

評価A◆胸突坂と幽霊坂に挟まれた斜面に立地した江戸時代の大名屋敷と明治以降の邸宅を保存し、貴重な収集物や文化事業の成果も含めて、永青文庫、旧細川庭園、松聲閣、和敬塾本館などに活用されている。

評価A◆胸突坂に芭蕉庵、永青文庫がたたずみ、幽霊坂、細川庭園と趣のあるスポットが集まっている。永青文庫も森の中に馴染み、細川庭園と松聲閣は質が高く、松聲閣からの庭園の眺めは最高でした。

評価A◆細川家のお屋敷、庭園、学問所などを財団や文京区の公園施設としてきれいに維持運営されていて素晴らしい。大名屋敷の名残をそのまま活かしている珍しい例ではないでしょうか。

評価A◆永青文庫は貴重な展示物が多数あり一見の価値あり。庭園は松聲閣も含めてとても開放的で多くの人が集っていた。また、管理状態が良くとても綺麗に整備されていた。

評価A◆こんなに手入れの行き届いた美しい庭園が無料だなんて、、！ 緑豊かな新鮮な空気と四季折々を楽しめる安心安全な場所が暮らしの身近な場所にあることが羨ましい限りです。歴史的施設の広大な土地をきちんと手入れし保存して、多くの庶民がタダで憩える場所を提供する行政は凄いなあ～と思いました。「永青文庫」では鎌倉～江戸時代の絵巻物を楽しく鑑賞しました。色がきれいに残っていることにビックリです。「長谷雄草子」のまるで漫画なストーリーに今も変わらない人間味を感じクスクスとしました。

評価A◆永青文庫には超小型のエレベーターがあり、配慮に感謝。紀長谷雄の絵巻展示も愉快でよかった。門前の石のサークルも面白かった。南の神田川と低地を見下ろす庭園が深く印象に残りました。南の高く広い青空も素敵でした。維新後の大名屋敷は大半が細分化され住宅地などに散逸してしまいましたが、ここはよく残されたと思います。江戸の古が思い浮かびます。

評価A◆肥後細川庭園は非常に良い。お金持ちが社会に還元してくれた(?) 無料で楽しめる施設がたくさんありますね。時間があれば1日滞在し、訪れる人と日の光の変化などを楽しむという味わい方もありそうです。

評価A◆山あり池あり洋館ありと盛り沢山な庭園。池のほとりから見た景色が壮大で見とれる。

評価A◆庭園がよく管理されている。所蔵品も一見の価値あり。

評価A◆旧大名の底力。

評価A◆緑豊かであり、周辺の坂とともに、近代のその周辺を感じられた。

評価A◆このような文化の集積は素晴らしい。都心にこんなところがあるんだ！



肥後細川庭園／回遊式和風庭園と旧学問所・松聲閣



永青文庫／貴重な細川コレクションを保存公開

3 ■早稲田大学キャンパス文化施設群（坪内逍遙演劇博物館+会津八一記念博物館+

国際文学館/村上春樹ライブラリー+早稲田大学歴史館）

評価:4.17 内訳:AAAAAABBBBBB-

評価A◆「地域に開かれた大学」を肌で感じる素晴らしいキャンパスだと思います。それぞれの施設が無料であることも、キャンパス内の出入りが誰でも自由にできることも、これぞ「早稲田大学の文化」という社会への貢献とその歴史の重みを感じました。

評価A◆常時開放された出入口が多い街と一体化したキャンパスで、そこに歴史的建物を生かした貴重なテーマ博物館が数多く設けられ、休日にも無料公開しているのが素晴らしい。特に演劇博物館の展示は興味深い。

評価A◆これだけの数と質の文化施設を一般に公開しているのは立派。演劇博物館は他では見られない展示も多く楽しく鑑賞しました。

評価A◆博物館がそれぞれの歴史や背景を持ち、独特の建築としてキャンパスに埋め込まれているのは興味深い。演劇博物館は数少ない今井兼次の作品で、アイストップにイギリス様式ながら小気味よい。

評価A◆構内に博物館や美術館がある大学は他にもあるが、ここは数も多く特色も豊か。無料で利用できるのも素晴らしい。余談ですが、正門から大隈重信像のあたりまで緩やかな上り坂になっていて、像の印象を強めている、というのを入学当時教わりました。さらに奥の行き止まりはE棟という校舎で崖に貼り付くように建てられています。3階まで上ると崖上の地面に出ることができます。

評価A◆早稲田大学がこんなに開かれているのも知らず、じっくり見たかったので今回は村上春樹ライブラリーのみ見ましたが、演劇博物館も見るべきでした！また来たいです。学内カフェの物価の高さは首をかしげざるを得ないです。平行して私は内田樹+ウスビ・サコの大学教育を巡る対談「君たちのための自由論」を読んでいたのですが、読書は他の体験と組み合わせられて発酵するので、双方が作用して心に残りそうです。体感として留学生が今や3～4割、というのは衝撃です。学費が高くなっていったり、校外に移転したりというのは学生運動を押さえる側面が大きかったようで、学生もすっかりおとなしくなりましたが、都内で頑張ったこれらの大学は強さを残している気もしました。街歩きに若い人も来て欲しいですね。

評価A◆演劇博物館など早稲田らしさがある。村上春樹ライブラリーはリノベによって今風な学生の集う場所。きれいに整備され1970年代後半からの早稲田の雰囲気はすっかり薄れてしまった。文化も時代により異なるし、その時代のリアル感をどこまで残すのがよいのだろうか。

評価B◆早稲田大学そのものが街に開かれているが、その中の様々な文化施設を一般に開放することで、大学と街とがさらに密接な関係になっている。

評価B◆分りにくいキャンパスの中に、個性的な建物が点在しているのは興味深い。特に演劇博物館はハーフトィンバーが特徴的なドイツ風の本造建築で、異彩を放っている。村上春樹ライブラリーは既存建物のリニューアルだが、中央の階段の吹き抜け空間が相互の視点を感じさせる効果的な仕掛けになっている。

評価B◆大隈侯の像や有名な講堂を回り、混雑するスクールバスや大隈庭園で遊ぶ子供たちを眺めてゆっくりと時間を過ごしました。リーガロイヤルホテルにはよい借景ですね。塀や門のないキャンパスは管理が大変だと思います。早稲田大学は本庄など遠隔地に多くの校地を有していますが、ミニチュア大学出身者としては、学生の皆さんが多数のキャンパスをどのように活用されているのか、想像ができません。

評価B◆学内の由緒ある建物を活かした展示施設をみると「大学の歴史」を感じる。それを休日にも一般開放になり賑わっているのは、大学が「市民が関心をもち、市民が学び、市民に愛され、市民が支える」という場になっているのではないかと思う。ただ、早稲田大学のブランドイメージをもう一歩越えてほしい。

評価B◆休日にも無料で公開されているのがすごい。



本部棟(1935年)に併設された早稲田大学歴史館



坪内逍遙演劇博物館(1928年)と国際文学館(右)

4 ■ 漱石山房記念館+漱石庭園・道草庵

評価:4.17 内訳:AAAAAABBBBB-

評価A◆現代建築の中に漱石の世界が詰まっている。展示内容も多岐にわたって面白い。緩やかな斜面地に立地しているので、前面の坂の上側と下側と見る位置によって印象がまるで違うのが面白い。下側から見た方が写真に残る景色と共通点が多い。

評価A◆狭い路地のゆるやかな坂道を行くと、低層のモダンな建物が迎えてくれる。無料ゾーンにも展示パネルや映像、漱石全集があり、カフェやミュージアムショップも楽しめる。有料ゾーンは書斎の再現をはじめ、さらに興味深い。(明治の文豪・漱石が、当時は東京の周辺部だった早稲田の出身なのは意外でした)

評価A◆新しくモダンな建物でありながら、漱石の書斎やデッキが復元されていて頑張った感あり。講座室もある様で多目的にも使えそう。

評価A◆自筆の原稿を見ることが出来て良かったです。意外に可愛らしい字を書くのだなあと思い、漱石の人となりを感じました。

評価A◆さほど混んでおらずゆっくり鑑賞できました。明るく清楚な建物・展示で、親しみを憶えました。漱石が蔵書を自分の座布団の周囲に平積みしている光景に感心しました。特別展「漱石の見た東京」も秀逸。49歳で没したことは改めて知りました。「道草庵」は閉門後で見学の時間がなく、残念。早稲田駅までの帰途、夏目坂を歩いたのもよい道のりでした。「夏目坂」は漱石の父君の命名だと。

評価A◆漱石山房通りの沿道で大規模開発(たしか老人ホーム、お知らせ看板があった)があるが、通り全体が、漱石の時代のイメージのある連続した歩行者空間になるとよい。

評価B◆細い道沿いにあるのが付きにくい立地ですが、コンパクトで端正な現代風の記念館。文学にあまり興味がないので、展示の良さはわかりませんが、漱石文学に詳しい方には貴重な記念館なのでしょう。

評価B◆カフェが閉まっていたのが惜しかった。有名な文豪作品は意外と読んでいないものなので、読みたい。

評価B★漱石山房を再現しており、その外観は外から見えるようにしているが、知らないと見ないで終わってしまいそうなのが残念。

評価B◆漱石先生の日常が垣間見られた気がします

評価B◆多少元氣回復。夏目漱石は個人的に好きなので楽しい！！



漱石山房記念館／路地の先の夏目漱石居宅跡に整備



漱石山房記念館／往時の大作家の書斎内部を再現

5 ■ 上記4施設のほかに、印象に残った場所など

胸突坂+水神社★高級住宅地と庶民的商店街の境界性が、坂道という形で顕在している。階段の急坂で見晴らしもいいが、何とも寂寥とした雰囲気なのは、福永武彦著「あなたの最も好きな場所」のイメージ通りだ。

坂道★胸突坂も幽霊坂も独特の雰囲気を持ち、沿道に佇む歴史的建築物の良いアプローチとなっている。

蕉雨庵一帯★往時の旧田中伯爵邸の広大な和風豪邸が、今も残されていて貴重な風景。内部公開を期待したい。

和敬塾★上京する青年たちへの支援組織。旧細川侯爵邸の立派な本館洋館は、当日イベントに利用されていた。

東京カテドラル聖マリア大聖堂★丹下健三の最高傑作！

東京カテドラル聖マリア大聖堂★十字架を形作る壮大な双曲放物線の造形を昭和30年代に建設したのはすごい。

外装のステンレス張りの輝きが荘厳さをもたらしている。ただ内装のコンクリートの打放しは経年変化で黒ずんできて陰湿なイメージになっている。素材を活かしつつ透明度のあるコーティングをした方がいい。

東京カテドラル聖マリア大聖堂★30年前に初めて見た時の感動の美しさが、今もなお同じように感じる美しさ。

東京カテドラル聖マリア大聖堂★50年前に訪ねたことをよく記憶している。内部の空間の印象は以前と変わらなかった。少し壁が黒ずんでしまったかな。50年後も残っているでしょうね。

東京カテドラル聖マリア大聖堂★丹下ならではの伸びやかな外観の造形、内部も荘厳。
 東京カテドラル聖マリア大聖堂★内部はシンプルだが、荘厳さを感じる。
 東京カテドラル聖マリア大聖堂★何度見ても内部の壮大さに圧倒される。
 東京カテドラル聖マリア大聖堂★静謐な素晴らしい空間。個人的には、ソフィアの聖堂の方が好みだけど。
 日本女子大学★大学の将来をかけたキャンパス整備、全体として心地よい。
 日本女子大学★かなり建物の密度が高いのに、キャンパスらしい空間が確保されている。
 日本女子大学★川崎市生田にあるキャンパスには何度か行きましたが、本部には初めて。
 日本女子大学百二十年館★建物に囲まれたサンクンガーデンが魅力的。
 日本女子大学図書館★日本女子大キャンパスと対峙して、程よいスケールとオープンで人の交流が感じられる居心地の良さそうな図書館。入れなかったのが残念。
 日本女子大学青蘭館★歩道に接して交流スペースがあるのが印象的だった。ヴォールトの屋根が交流スペースを暖かく包んでいる。
 日本女子大学青蘭館★通りに面したヒューマンな交流スペース。反対側の杏彩館も通りに面してガラス張りの建築が学生の活動を外に見せており、女子大だからと隔離せずに、社会進出を目指している姿勢がわかる。
 旧田中角栄邸（田中御殿）★あ、門だけ残ってる！！
 集合住宅TOSA★神田川沿いの染色工場用地が転用され、居心地よい空間と洗練されたデザインの集合住宅に。
 都電・早稲田終点★都電荒川線の健在に祝杯。
 大隈通り商店街★飲食店に入りたいです。
 早稲田の観音寺★仏教寺院とは思えない意表をつく外観に驚きました。コンクリートの塀は、さすがに落書きマニアも遠慮しているようで、存在の説得力を感じました。
 早稲田大学正門★いつ見ても正門とは思えないなあ。周辺に溶け込みすぎていて・・・。
 ドラード和世陀★特徴的な外観、内装。
 ドラード和世陀★圧倒的な建築デザインの力、しかも角地で街の象徴。壊された梵作品もあるが、残ってほしい。
 ドラード和世陀★個性的な装飾はファサードだけかと思っていたら、建物全身、細部にわたって手抜きのない芸術作品で、その迫力に圧倒されました。
 ドラード和世陀★凄いパワーでした。



目白台にそびえる東京カテドラル・聖マリア大聖堂



バス通りに並ぶガラス張りの日本女子大学・青蘭館



ひときわ目を引く梵寿綱設計のドラード和世陀



震災復興事業による渡辺仁設計の早稲田小学校

ドラード和世陀★ガウディ風の装飾が散りばめられた楽しい商業建築。これだけやれば楽しい。これからもテナントに使われていけば、やがては名所になるのでは。

区立早稲田小学校★復興小学校だが、他とは一味違うデザイン。

区立早稲田小学校★復興小学校にありがちな「斬新さ」が強調されていないだけに、内部や使われ方を見たい。
新派四川料理「川芙蓉」★早稲田駅の至近で、8人で4時間あまりをゆっくりと過ごすことができました。辛い料理も美味しく価格もリーズナブルで、良いお店でした。

6 ■神田川を挟んだ目白台+早稲田の街全体 (今回歩いた範囲) 評価:4.85 内訳:AAAAAAAAAAAAAB

評価A◆目白台は大規模な庭園を核として周辺の高級住宅地が成立し、早稲田は大学を核として周辺の学生街ができているという点で、質的には異なるものの、どちらも核を活かして街の個性を発揮している。

評価A◆江戸川公園や細川邸などを全く知らなかったのが、今回は驚きの連続だった。歴史的建築物や自然があり、高層建築の少ない大学キャンパスなど、全体としてとても良い雰囲気をつくっている。

評価A◆神田川の形成する非対称谷（北岸は急な崖地、南岸は緩やかな斜面）という自然地形が、そのまま台地上の高級住宅地と庶民的な商店街という街の形成史につながっている。日本女子大学の百二十年記念館のサンクンガーデン案が難色を示されたのも、この点からは理解できそう。早稲田が漱石を生んだのも。

評価A◆セレブの雰囲気を目白台も、雑多な雰囲気の早稲田の街も魅力的な街でした。日本女子大学と早稲田大学もその対比に合っているように思います。

評価A◆高低差が生み出すダイナミックな景観の目白台と、緩傾斜で庶民的な雰囲気の漂う早稲田界隈の対比の面白さを改めて実感した。

評価A◆崖の上の町、崖の下町それぞれが、歴史を上手く使ったまちづくりがなされていました。

評価A◆まだ歩いていないところもたくさんあるが、それぞれの部分に個性があり、変化に富んでいて興味がつきない。早稲田大学周辺は歩行者優先の道路も整備されて、大学の巨大な求心力のようなものが働いているし、最近のどこの駅前にもある商業施設ではない店舗があるなど、学生街が新しい下町になっている。

評価A◆山の手と下町という対照的な街の雰囲気を、坂を上ったり下ったりと自分の足で街の変化を感じることができてとても面白かったです。目白台は眺めの良さはあるだろうけど現代を象徴する閉鎖的なコミュニティを感じましたし、早稲田は視線が近くて眺めの良さは無いだろうけど開放的なコミュニティを感じました。また、坂の斜面の広大な庭園が無料で開放されているというのも、対照的な街の空気の融合場所のようで面白いと思いました。

評価A◆地形を感じながら、街の形成を感じられたことが良かったです。

評価A◆神田川の北岸の急斜面・高台と、南岸のほぼ平坦な地形の落差を実感しました。北面の高低差の大きいあたりは、緑と急な坂道が比較的残されていました。原初の神田川は、崖下を流れる小川だったのでしょうか？現在のコンクリート3面貼りの広く深い神田川の形は、いつごろ築造されたものなのでしょうか？

評価A◆遅れてしまい、前半は参加できなかったが一部自分で歩きました。文京区さすがお上品、教育ママがこだわるのもわかります。都内の山手線の駅にはどこもアトレやタワマンができ、どんどん画一化していく中で、早稲田は凄いパワーと思います。もう一度来たいです。

評価A◆大変中身の濃いハードで素晴らしい企画だったと思います。あまりに情報量が多すぎて、思い出すのが大変です。

評価B◆目白の高台と早稲田の高さのコントラストが印象的でした。



神田川から目白台に上る急な胸突坂と芭蕉庵（右）



早稲田奉仕園の中庭に建つスコットホール

7■自然地形や歴史文化を生かした街の魅力とは、どのようなものでしょうか。

また、それらを生かしたまちづくりには、今後どのようなことが考えられるでしょうか。

●街は自然地形の制約の中で長年の人々の営みが蓄積されることで、個性や魅力を生み出している。その意味ではニュータウンは機能的には良くできていても、街の個性や本来の魅力という面では歴史がある街には及ばない。一方、自然地形や歴史文化を生かした街の場合、それを守っているだけでは時代の変化に対応できなくなる。時代の変化に合わせて、何を守り、何を変えるのか、の選択が重要になってくるのだと思う。

●東京は非常に複雑で豊かな自然地形を有し、江戸以降の歴史はその上に成立した。自然地形と歴史文化と産業機能と居住環境は、相互に密接に関連し合ってきた（丘の上の低層住宅地や川沿いの庶民的商店街はその一例）。しかし現代の都市再生は、どこでも敷地統合の高層マンションや敷地細分化のミニ戸建開発を促し、こうした街の個性を無くしてどこも均質化している。土地ごとに原風景を読み解いた上での異なるまちづくりが必要である。

●高層ビルが建ち並ぶと地形が視線から隠れてしまうため、高さ制限を設けること。特に台地は植栽による緑など自然や四季を感じる場として重要と思う。京都では東山の景観が広がり地域を感じることができるが、東京も台地が多く、坂が多いことが体感としてはわかるが景色として感じられにくくなっている。また、なぜここに人々が住み着いたか、産業が興った経緯など、時代ごとに当時の往来の様子がリアルにわかる画像などが良い。

●自然地形や歴史文化を生かすことで、地域のアイデンティティが形成され、街に住む人、通う人に街を大切に思う気持ちが醸成されて、よりよい街になっていくと思います。

●自然地形はその町の成り立ちそのもの。共存し活用しながらのまちづくりが出来れば良いですね。また歴史を活かせるかどうかは文化度そのもの。行政や地域の人々の頑張りに期待。

●かつての傾向として、台地上の住宅地は敷地が大きくゆったりとして、下りた所は敷地が小さく密度も高い。今は台地上も高密度だが、間の傾斜地は緑の豊かさや景観の良さと両方の町から集う憩いの空間となるのが良い。

●地形と歴史は各地に残され、大森貝塚や横浜の高台や鶴見川沿いの低地にも、縄文海進期の貝塚などの遺構や記憶、語り伝えがあります。開発と称する破壊が進み、困難ですが、残すこと・語り継ぐことが歴史文化を伝える唯一のよすがです。地名や標識・道標・建造物に歴史を刻むことも重要です。安易な地名の改廃は暴力ですね。

●日本には、欧米的な都市全般にわたるガッチリしたビジョンや都市計画がないのは恥ずかしい！と思っていましたが、それなりの計画はありながらルーズに、どちらかという自然発生的にできてきたのが東京で、それはそれでよいのかなあと感じました。

●自然地形も歴史も、今を生きている私たちがそこに興味を感じ、いろいろと学んでみようと思うこと。また先人が遺した空間を心地よいとか、ここで〇〇したいとか、また来たいとか思うこと。またこれまで長い年月、多くの人が、その場所の何を、なぜ愛してきたのかを考えること。

●歴史をさかのぼって昔に思いを馳せることのできる空気感が漂っている街は、とても魅力的に感じます。歴史や文化が現実生活に融合しながら日々の暮らしに豊かさを添えられる街は、今の日本の人口減少や超高齢化社会において将来性のある成長し続けられる街だと思います。生産人口が減るなかで超高齢化社会での暮らしを豊かにするには、ハード面でもソフト面でも、開放的で交流の多い地域コミュニティになれるしかけ作りが大切だと思います。そうした中で、自然地形を手入れしながら安心安全に楽しめる公共広場や、早稲田大学のような地域に開かれたキャンパスは、とても意義深いものだと感じました。

●歴史的建築物や公園が、低層住宅地の中に残り、それが街全体の落ち着きとか文化を感じさせている。日本女子大の図書館や青蘭館、オトノハカフェのように、スケールを合わせながら新しい解釈の建物をインフィルしていくことで、よりこうした街が良くなっていくのではないだろうか。



蕉雨園（旧田中伯爵邸）と永青文庫（旧細川侯爵邸）



早稲田大学前期卒業式に集う留学生たち(9/16撮影)

8 ■今回の企画全体に対する感想など

●神田川を挟んで、目白台と早稲田を対比的に見るという企画はなかなか面白かったと思います。肥後細川庭園だけでなく、椿山荘や大隈庭園も元々は大名屋敷の庭園であり、東京の緑空間は江戸の遺産で成り立っているのだと強く感じました。(KT)

●目白台の高台の高級住宅地から、崖を下って早稲田側へ降りると一気に雰囲気が変わる、その対比を見ながら楽しく歩きました。坂道のある町を歩くのはいつも面白いです。(FMi)

●なじみがあつた目白の台地ですが、江戸川（神田川）方向に下りることがほとんどなかったので貴重な体験でした。早稲田大学の周辺も学生街という感じが薄れ、街も人ともに時代の変化を感じました。(HH)

●目白台、早稲田、普段は何気なく訪れるエリアではありますが、テーマ性を持って歩いてみると、点が線になり面になりと、あれこれ思いを巡らせながら感じる景色もまた違って見えるものだと思います。また、久しぶりに参加させて頂き、街を歩く楽しさを思い出した感じがしました。見どころ満載の企画、大変楽しませて頂きました。Oさんに感謝です。ありがとうございました。(SN)

●ミーハー的な感想になりますが、「東京の都心はやはり面白い」と思います。それは、そもそも変化に富んだ地形、江戸時代の武家屋敷と町地の対比、明治以降の広大な大名屋敷の活かされ方、旧大名の文化人としての見識など様々な要素が重なり合った上に、近代以降の変化がさらに重なり、興味の尽きないまち。そこを歩くのも大変楽しい企画でした。(SM)

●午後1時15分に集合、まもなくそこから12名で北西へ急坂を登り、歩行と見学をスタート。午後6時頃、東西線早稲田駅付近で歩行と見学完了。近くの四川中華「川芙蓉-SENFUYOU-」で8名で懇親会開始。10時頃、懇親会盛会にて打ち上げ。Mさん、Sさん楽しいお話をありがとうございました。某Oハウスの話で盛り上がりましたね。ウォーキングTEKU-TEKUとドリンキングTEKU-TEKUのどちらも4時間あまりという充実した時間を過ごすことができました。18km・2万5千歩のあと、懇親会も参加できて、達成感で一杯です。コーディネーターの配慮に感謝いたします。ありがとうございました。さわやかな気候にも恵まれました。(MT)

●今回も盛りだくさんで、多様さの中に常に川が作り出した地形が意識される素晴らしい内容でした。(MMh)

●見どころ盛りだくさんの企画ありがとうございました。全体にもう少し減らしてもよかったと思います。(MH)

●少し疲れましたが、中華の懇親会は楽しかったですね (YE)。

●コーディネーター、ありがとうございます (MMy)。

●一人で歩いていた気づかないことばかりでした。(ST)

●早稲田のそばで、日本女子大との間の今回のエリアは、全くノーマークでした。個々の建物や庭園が紹介されていますが、街全体の散策コースとしてもっとPRしても良いのではと思いました。今回も一緒に歩けませんでした。住宅地特集は良いですね。Oさん、ありがとうございました。(FMa)

コーディネーターより ■今回の企画の契機は、前回の作家アトリエ建築巡りの際に訪問できなかった漱石山房を軸に、近くの早稲田大学博物館群や目白台の永青文庫も……と欲張った結果、神田川の非対称谷（北の住宅地と南の学生街）がテーマとなりました。秋晴れの絶好の街歩き日和となり、少し長めのコースでしたが、皆さんお疲れさまでした。また日本女子大ではSNさんに母校のご案内、早稲田商店街ではMHさんのご親類のショップ訪問、終了後はYEさんのご推奨の懇親会場と、ご協力のおかげで一段と充実したことを感謝します。それから当日は10年以上ぶりに参加された方が3人もいらして、復活再会がうれしかったです。今後もよろしく！（OR）



日本女子大学/百二十年館(2021年, by妹島和世)にて



早稲田大学/大隈記念講堂(1927年, by佐藤一)にて